

第5回水景フォトコンテスト審査結果発表

テーマ「夏の水景」

この度の東日本大震災により被災された方々、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げます。

第五回フォトコンテストにご応募いただき、誠にありがとうございました。

ごとの夏は、東日本大震災と原発事故の影響によりほぼ全国的な節電の影響を受け、公園やビル施設等にある水景はほぼ全て停止状態になってしまいました。そのため撮るべき場所がないという状態でもあり、応募数も約百数十点と過去に比して大幅な減少となりました。しかしながら作品としては例年のように水景のもつ楽しさ、噴水の水に触れる喜びやたくさんの物語が想起できるような味わいのある作品が多くあり、審査する私共も感慨深く、感銘を受けました。

さて、今回は総評を特別審査員の写真家・蔵真墨氏にお願い致しました。

次回第6回フォトコンテストも開催する予定ですが、詳細が決まり次第お知らせ致しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最優秀作品



作品名 「アラ！大変」
平野 和雄様

準優秀作品



作品名 「真夏のひととき」
加藤 謹一様



作品名 「楽しいひととき」
早川 英夫様

次点作品



作品名 「水のカーテン」
多和 裕二 様



作品名 「水の架け橋」
谷村 亨二 様



作品名 「水きらきら」
竹村 悦子 様



作品名 「ワー水気持ちイー」
竹村 悦子 様

第5回フォトコンテスト 寸評・総評

最優秀賞 平野さん

瞬間の動きに女性のかわいらしさとたくましさをとらえている圧巻の写真。(蔵)

突然噴き出した噴水に驚く様子、あわてて逃げる姿は大きくなった子供そのもの。多分上げた歓声は「キャーッ」。可愛くも圧倒的な瞬間です。(係)

優秀賞 加藤さん (カップルの写真)

どんなシチュエーションで何を渡しているのだろうかと思入ってしまう、見ていて飽きない物語性のある作品。(蔵)

膜状で落ちている滝の合間から見える若い二人。水景とは関係なく立っている二人のようですが、瞬間的に変わる水の動きに会話が聞こえてきそうです。(係)

優秀賞 早川さん (子供の写真)

無心に水とたわむれ子供の表情、体の動きを写している。夏の日差しの下、明るいコントラストある色が楽しく清涼感ある一枚。

噴水はどんな人でも楽しくさせてくれる。ましては子供なら……。多くは無用ですね (係)

次点 飯塚さん

子供の自然とあふれてくる飾らない驚きの表情には有無をいわせぬ魅力があります。(蔵)

よろこんでいるのか、びっくりしているのか?、この後泣き出しちゃうのか、おおはしゃぎするのか? 吐出量が多く噴きだす水に全身で遊べるこの子がうらやましい。(係)

次点 多和さん

広角レンズをストレートに使いきるような構図。安定感の中に少年たちの動きがアクセントになって効いています。(蔵)

こちら水膜の滝。落ちる水の幕の内側と外側で遊ぶ子供達。さて、水の幕はどんなに厚い幕にして落としても、1m半も幕ではいられずにバラバラになってしまうって、皆さんご存じですか? (係)

次点 竹村さん、谷村さん (水玉の写真)

動いている水を撮ると、目に見えるかたちと違って写ることがあります。それが写真の面白さでもあるのですが、水玉の形が現実に思いもしないような形に写って、かえって絵画のように見えたりもします。(蔵)

竹村さん：降り注ぐ水の反対側にたたずむ少女か女性。油絵のようでもあり、清涼感たっぷりです。(係)

谷村さん：写真で撮ってはじめて写るアーチ噴水の動きが、男女の心の動きとどう関係するのでしょうか? いじらしい写真です。(係)

総評

夏は水景の季節です。水のある風景を見て楽しむだけでなく、水とふれあって楽しめる季節。応募いただいた写真から、夏という季節の魅力をたくさん見せていただきました。また節電の夏であった今年、皆さん様々に工夫して水とふれあいながら涼を取りこんでいたようです。(蔵)

2011年10月 蔵 真墨

■ 蔵 真墨 氏 略 歴

同志社大卒業。写真家。個展、グループ展多数。2007年「Japan Caught by Camera - Works from the Photographic Art in Japan-」上海美術館、2008年「写★新世界 パリ、ニューヨーク、東京、そして上海」せんだいメディアテーク/宮城など。2011年秋、東京、京橋のツァイト・フォト・サロンにて個展を開催。写真集を同時発行。